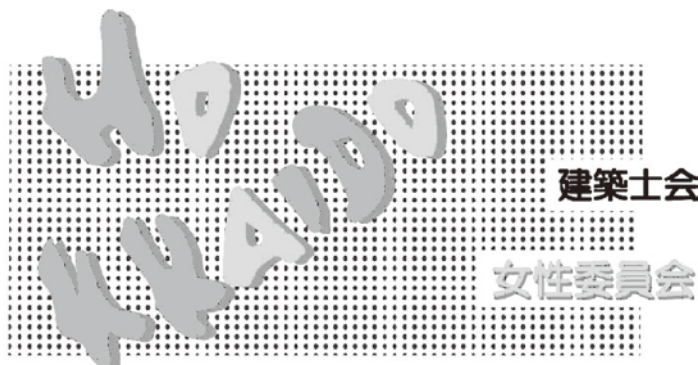


No. 109



『終の住まい』

岩崎 美乃 (函館支部)

60代になって、30代の子育ての時に建てた自宅がだんだん自分に合わないと感じるようになりました。

どんな家に住みたいのか、計画を立てるために思考の整理をしました。

3つのポイントがあります。

お金の変化→年金生活
身体の変化→健康寿命
→身体介護

現役世代から年金生活にシフトすると、入ってくるお金が変化します。私の家庭では10万円くらい少なくなる感じです。

日々の生活を調整するか、または仕事を続けるなど、何を優先させるのかを決めていきます。

65才からやりたかったこと、行きたかったところ、欲しかったものなど…。

時間が使えるときに思ったようにお金が使えないのは、ちょっと辛いですね。

ただ、やりたいことをやれる時間にも限りがあって、80才の壁に近づくと一人で旅行に行くことや、その準備が難しくなり使い道が減ってくるようになります。

それを踏まえて終の住まいをどう考えるかが大切になります。

戸建ては雪かきの問題がありますので、選択肢として集合住宅もあると思います。

私の選択肢では、子育て用の住宅から移ることで。

シニアの雪かきでの死亡事故は心が痛みます。

但し集合住宅の場合は、年齢を重ねるにつれ足腰が弱るので、停電になっても自分の足で買い物などに行くことが出来る低層階が望ましいです。

間取りはやりたいことがスムーズにでき、収納や水回りがゆったりしている家事がしやすい家が理想です。

また身体介護が必要になると生活が変わります。家事や着替えなどの身支度はまだ良いのですが、トイレの介助が必要になると介護の人の負担が増えます。

フルサポートが必要になると施設に入居するのが良いと思っていましたが、仲間と暮らすグループホームのような住み方もあることを思い出しました。

地域でシニア自身も集う、話す、役割を持つ、居場所を作る、住むことが小さな村のように、年代に関わりなく助け合って生きることにつながるのではないかと思います。



『マンションのリノベーション』

児玉 恵美 (札幌支部)

昨年、築37年の丁寧に手入れされた中庭を持つ理想のマンションと出会いました。それまで数年間探して見つけた、外壁のレンガタイルとガラスの階段室が調和しているヴィンテージマンション…私達はこの建物の持つ素材の魅力を暮らしに取り込むイメージを持ってリノベーションをする事にしました。設備工事や大工工事は専門の職人さんに分離発注して、解体や床の下地施工・仕上げ工事等出来る事は自分達で挑戦しました。

建築の持つ魅力を生かす為に『素材』が大切な要素になり、コンクリート・無垢の木・タイル等それぞれの持つ良さを引き出す事を優先していきました。4LDKをほぼスケルトンに解体、RC壁式構造の室内を貫く壁約4mと梁約7mを表しにして、そこから空間構成は構造壁の《RCの骨格》の強さと対比する様に、水廻りのコアの壁には木板を貼り《木の箱》をつくる事で、緩やかに区切りました。

そしてもう一つ、今の暮らしを快適にする為に『暖かい家』を目指しました。秋、外壁に面する内装にt39.5mmの断熱ボード0.022w/(m/k)を大工さんが貼っていくに従って、格段に室温が上がった事に驚き、暖房計画をストーブ2台から1台に変更しています。一冬過ごして、『断熱が一番安い暖房器具』という森美和さんの言葉を実感しました。

『素材』と『暖かい家』…何ともシンプル… 築37年の建築の中での住まい 大切な物を残してそぎ落としていくと、自然とそこに導かれた感じです。後は、日常生活の物をどれだけシンプルにしていけるか！ これからの最大のテーマになりそうです。